

平成26年度学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業

# 学校支援実践研修会

◎期 日:平成26年7月16日(水)13:30~16:20

◎会 場:鏡石町立第一小学校 鏡石町公民館

## 【研修内容】

◎鏡石町立第一小学校での学校支援活動参観！

◎大玉村と鏡石町の学校支援地域本部の実践事例発表！

(学校支援本部事業への取組で平成24年度文部科学大臣表彰)



## 【目 的】

学校支援事業や放課後支援事業の先進的な取組の実施状況を見学し、成果や現状について協議するなど実践を学ぶための研修会を行い、事業への理解を深め関係者の資質向上を図るとともに実施校の拡充を図る。

## 【主 催】

福島県教育委員会

受付 13:15~ 鏡石町公民館

13:30 ~移動~

13:45  
~14:30

◇支援活動参観  
「家庭科の授業での裁縫支援」  
鏡石町立第一小学校 5年2組

移 動 & 休 憩

14:50  
~15:50

◇事例発表  
「鏡石町学校支援地域本部の取組」  
講師:鏡石町コーディネーター  
石井 舞子 氏  
杉本 和美 氏  
「大玉村学校支援地域本部の取組」  
講師:大玉村コーディネーター  
伊藤 由美子 氏

15:50  
~16:10

◇質疑応答・情報交換

~16:20

閉 会



## □ 支援活動参観

### 「家庭科の授業での裁縫支援活動」

鏡石町学校支援地域本部「学校応援団！」 鏡石町立第一小学校5年2組

#### 「小もの入れをつくろう」

○針に糸を通したり、糸端を玉結び、玉どめしたり、なみ縫い、返し縫いなどで布を合わせて縫ったり、ボタンを付けたりし、小もの入れを作ることができる。



○6班に分かれての制作活動にあわせ「鏡石町学校応援団！」のボランティア6名で1班4～5名の児童に1人で支援を行いました。

○児童が技能を習得できるようにと実際にやり方をやって見せてから児童に取り組みせ、なかなかマスターできない児童ができるようになるまで、何度も繰り返しやり方を見せていました。

○1時間の中で、小もの入れの両脇まで縫い終わることを目標としていましたが、ボランティアの方々に支えられ、多くの児童が小もの入れを完成させることができました。



○子どもたちに何度も温かく支援するボラン

ティアの方々とそれに答えて意欲的に

がんばる子どもたちの姿を見ることができました。

完成した作品を持つ

子どもたちの姿からは、できた喜びを感じることができ、ボランティア

による支援の重要性を改めて感じました。



## □ 実践発表

### 「鏡石町学校支援地域本部の取組」

講師：学校支援地域本部コーディネーター 石井 舞子 氏 杉本 和美 氏

○鏡石町「学校応援団！」として、鏡石一小・鏡石二小・鏡石中で支援活動を行っている。

○学校・家庭・地域が連携し「地域全体で」子どもを育てていこう！という意識で「できることをできるときにできるところから」のスタンスで活動している。

○登録ボランティアは100名を超え、社会教育団体やサークルとも連携している。(ダンスや囲碁 etc)

○各校にボランティアの居場所となる部屋を確保し、ボランティア同士やコーディネーターとの情報の共有を図っている。

○支援活動の目安となるように年間計画を学校やボランティアに配布している。

◇前任のコーディネーターさんから引き継いで2年目、日々これでいいのかと悩みながらも一生懸命取り組んでおられることに参加者の方々も共感されていました。

保護者だけでなく専門的な支援ができるように様々な団体と連携されていることやボランティアの居場所づくりなど、参考になる実践をたくさん発表していただきました。



## □ 実践発表

### 「大玉村学校支援地域本部の取組」

講師：学校支援地域本部コーディネーター 伊藤 由美子 氏

○大玉村学校支援本部を中心に、コミュニティ・スクールを推進している。「スクール・コミュニティ」という学校を核にした地域づくりに取り組んでいる。

○ボランティア登録者は80名を超え、ボランティアの意志を確認しながら活動している。

○ボランティアのやりたいものを押しつけるのではなく学校のニーズに合わせてコーディネートしている。

○「邦楽教室」や「浴衣の着付け教室」を地域の方を講師に実施することができた。学校は地域を支える核に

なっていることを地域が再認識するためにも、より多くの人が学校に関わっていくことが大切であると考え。コーディネーターとして、学校と地域をつなぐことができるように、それぞれが負担とならないように、調整役として取り組んでいきたい。

◇多くの実践事例を写真等で詳しく発表していただきました。最後に述べていただいたコーディネーターとしての思いは、参加者にとって大変参考になるものでありました。



## 質疑応答

Q：ボランティアの居場所でのお茶の予算やコーディネーターの参加状況

A：学校に協力していただいている。

A：ボランティアが気持ちよく関わるように、すべての活動に関わるようにしている。長時間のものや何度も実践されやることが分かっている場合は、途中で退席させていただくこともあるが、初めての時の時は、最後まで関わるようにしている。

A：活動後の茶話会には、次に気持ちよくつながるように必ず出席し、ボランティアさんから話を聞いている。

Q：学校でボランティアを組織し活動していきたいと考えているのだが

A：はじめはなかなか受け入れてくれないと思うが、良さが分かってもらえるよう、気長に取り組むことが大切である。

Q：多くの人ボランティア登録されているが、その秘訣は

A：小学校の入学式後に参加を呼びかけている。公民館を利用されている団体や生涯学習関係の団体の方の中から個別にお願いすることもある。

母親の横のつながりや職員の中での情報からお願いしていることもある。



## ◇参加者の声・感想等

○子どもたちがのびのび家庭科の授業に取り組んでいてよかった。

○子どもたち一人ひとりが取り残されることがないのでよかったです。

○コーディネーターとボランティアとの打合せがよくなされている。

○学校とボランティアをつなぐ応援団は、学校に居場所をつくったのはとてもいいと思いました。

○このような研修会に行政の方も参加するとよいと思う。

○研修会に参加すると成功している事例も勉強になりますが、問題点の解決に向けての取組など、抱えている問題や疑問は共通しているものが多いので参考になります。

○午後だけの短い時間での中身の濃い研修で、大変充実感がありました。

○ボランティアさんの活動が浸透している印象を受けました。

○ボランティアの方がいることで、子どもたちが自分の力でできていると思った。

○皆さん精力的に活動をしている様子が伝わり勉強になりました。自治体も熱心に支援をしてくれている印象です。

○悩んでいる点が同じだったので、共感しました。

○大玉村・鏡石町のコーディネーターの方ご苦労様です。私たちが少しでも子どもたちのために協力したいと思います。

○学校支援の取組が今年からで手探りの状態ですが、本日の研修を参考にがんばりたいと思います。

○地域の人々がたくさん関わって子どもたちを育てることは、大切なことだと思いました。



今回は、各地域の学校支援本部のコーディネーターやボランティアの方、PTA役員、行政関係者、子育て支援のボランティアの方など19名の方が参加されました。また、鏡石第一小学校並びに鏡石町公民館の御協力で行うことができました。ありがとうございました。

次回は12月に田村市で実施する予定です。多くの方の参加をお待ちしています。